

チェルノブイリ通信

2009年12月10日

No. 78

- 発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26バスター館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to>
- 募金口座 郵便振替口座 0177-1-65328
e-バンク ジャズ支店(支店番号201) (普) 7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる衣料支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



工房「のぞみ21」スタッフアラーさんの娘、アレクサンドラーちゃん

特集：ブレスト第9回検診帰国報告

検診団派遣は、新たなステップへ
～甲状腺手術の成功と、乳ガン検診体制整備～

ブレスト第9回検診に参加して
甲状腺内視鏡手術の成功と、ベラルーシ医療事情

医学生からの報告
海外で患者さんの命に向き合う

福祉工房「のぞみ21」スタッフ紹介

【新連載】
今さら聞けないチェルノブイリQ&A

チャリティヘアサロン・スネガビーク報告

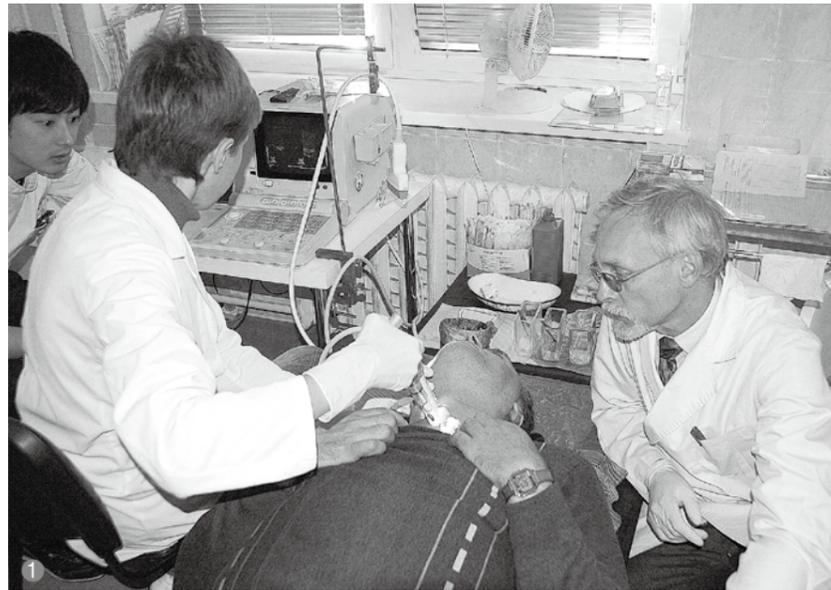
事務局日誌より主な活動報告

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

ブレスト第9回検診帰国報告 検診団派遣は、新たなステップへ ～甲状腺手術の成功と、乳ガン検診体制整備～

チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事/事務局長
川原 秀之



1.ブレスト市での甲状腺ガン検診 2.ブレスト州立内分泌診療所へ支援物資を贈呈 3.検鏡をする渡會臨床検査技師 4.再会を果たしたアリョーシャさんと清水先生 5.検診を受けに来た患者さん

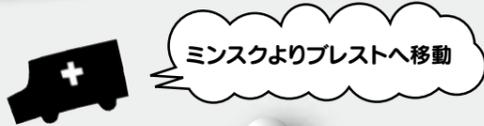
《今回届けた主な支援物資・支援金》	
■ベラルーシ赤十字 移動検診車「雪だるま2号」維持費	\$1,500
■ミンスク10番病院 医療機材等購入費	\$1,000
■ブレスト州立内分泌診療所 医療機材等購入費 医療支援物資(医療器具(消耗品)、検査用試薬など)	\$2,000
■福祉工房「のぞみ21」 工房運営カンパ	\$2,700
■NGO「コンフィデンス」 活動運営カンパ (運営費\$900+保養プログラム経費\$600)	\$1500

2009年10月4日(日)～13日(火)の10日間、チェルノブイリ原発事故の最大の被災地ベラルーシ共和国へ第9回検診団および第29次調査団を派遣した。派遣メンバーは、清水一雄医師(日本医科大学)、野宗義博医師(済生会呉病院)、片山昭公医師(旭川医科大学)、渡會泰彦臨床検査技師(日本医科大学付属病院)、日本医科大学5年生の田中裕一さん、ロシア語医療通訳で現地コーディネーターの山田英雄さん、現地通訳としてマリナ・チャイキナさん、チェルノブイリ医療支援ネットワーク(以下CMN)より理事の川原秀之の計8名。

関係医療機関の訪問、支援物資および支援金の贈呈、ブレスト市での甲状腺ガン検診、乳ガン講義、清水先生によるベラルーシ初の甲状腺内視鏡手術などのスケジュールを終え、検診団は10月11日(日)に、調査団はゴメリでの取材などを終え13日(火)にそれぞれ日本へ帰国した。現地での活動の様子をテーマごとに報告したい。



▼医療機関などを訪問、打合せ
ミンスク市のベラルーシ赤十字と10番病院を訪問し、支援金を贈呈した。赤十字では現在使用中の「雪だるま2号」(日本の皆さまからのカンパにより2005年に寄贈)の走行距離などを確認した。赤十字ドライバーのタデオシュさん(写真)の話では、道路の整備なども進み、初代「雪だるま号」ほどの消耗度はなく、あと4、5年は使用できるとのことだった。また日本大使館を表敬訪問し、松野大使へこれまでの甲状腺ガン検診の取り組みなどについて報告した。



▼ベラルーシ初となる甲状腺内視鏡手術
ブレスト州立病院にて清水先生の執刀のもと、片山先生他、多くの方々のサポートにより、ベラルーシ初の甲状腺内視鏡手術が行われた。患者はガリーナさん(31歳・女性)。言葉の壁や手術器具の違いなど万全の体制でない中、長時間を有したが手術は無事に成功した。術後の経過も良好で、帰国後アルツール先生からの電話では、「患者さんは無事に退院した、またとても喜んでいた」とのことだった。

★今回の「チェルノブイリ通信」79号で、今回の甲状腺内視鏡手術を執刀された清水先生からの報告記事を掲載予定です。どうぞ楽しみに。



▼リュドミラ・ウクラインカさんとの再会
現地での事務サポートを担当しているリュドミラ・ウクラインカ(愛称リュダ)さんとミンスクで再会した。リュダは15歳のときに甲状腺の摘出手術を行ったが、しばらく前の定期検診にてリンパ節が腫れていると診断された。今回ミンスク10番病院を訪問した際に、清水先生とアルツール先生(ブレスト州立内分泌診療所)にリュダの甲状腺の状態を診察していただいたが、特に異常は見られず、安心することができた。



▼ブレストでの甲状腺ガン検診
ブレスト州立内分泌診療所にて第9回目となる甲状腺ガン検診を実施。問診、触診～吸引穿刺(注射器で細胞を採取する)までは、ほぼ現地スタッフで実施できていた。今回の患者数は29名で、診断結果は悪性3名・鑑別困難5名・良性20名・検体不適1名だった。今回同行された専門家からも指摘があったが、今後は引き続き医療機材(検診で使用する消耗品やエコーなどの大型機材)の支援と、細胞診断をする病理スタッフの育成(日本での研修など)が課題であり、具体的な解決方法を協議していきたい。

★今回の「チェルノブイリ通信」79号で、臨床検査技師の渡會先生からの報告記事を掲載予定です。どうぞ楽しみに。

ミンスクよりゴメリへ移動



▼現地福祉工房「のぞみ21」取材

チェルノブイリ原発事故の被災者や障がいを持った若者が働く福祉工房「のぞみ21」よりマトリョーシカなどの雑貨仕入と、工房で働くスタッフへのインタビューを実施。
工房経営者のナターシャさん、会計係のタチアナさんとともに今回の取材に応じてくれたのは、縫製と刺しゅうを担当するアラールさん。そして愛娘のアレクサンドラーちゃん(9歳)とニーナちゃん(3歳)。



現在工房には事務所しかなく、縫製・塗装などの作業は各スタッフが自宅で行っている。国内では海外からの安価な商品に押されがちで、また海外からの発注も減っており、工房の運営は年々厳しくなっている。
CMNでは今後も雑貨の購入と運営カンパの呼びかけなどを通じて、工房を支援していきたいと考えている。

ベラルーシ料理と民芸品の部屋
<http://www.cher9.to/mingei/index.html>

★今回新たに仕入れた雑貨は団体ウェブサイトにも掲載予定です。どうぞお楽しみに。

ミンスクからプレストへの道のり
広大な草原がとこまでも続く



■終わりに:

ベラルーシを訪問する前は、ロシア・ベラルーシに対する印象が薄く、想像することも困難でした。しかしモスクワに到着すると、そのイメージに変化が生まれました。人々は元気で明るく、生き生きとしており、経済の変化にも順応しているのが見えました。日本の文化との違いを見せつけられ、まだまだ私自身の器の小ささを感じざるを得ませんでした。また高物価なことに驚き、外国人価格としても生きていくことの厳しさを肌で感じました。

ベラルーシも同様でした。しかし現地ではチェルノブイリの被災者支援に関わっている方々は、私たち検診団にはとても優しく、親切に接してくれました。これまで関わってこられた先輩諸士の活動の賜物だと思います。

国土の雄大さ、人々の大らかさ、そして生きていくことに対する貪欲さは今、私が毎日関わっている高校生にはないものでした。

きっとベラルーシはこれから経済がゆるやかに発展していく段階で、私たちの体験した負のものを体験していくことでしょうか、今ある不易なもの、大事にしてほしい気持ちでいっぱいです。

今回参加して得たものを、今後CMNに関わる人々に伝えることができたならば、検診・調査団に参加した意義があるものと思えます。

最後になりましたが、この度の派遣事業には会員の皆様からのご寄付をはじめ、多くの方々からのご協力をいただきました。この場を借りて深くお礼を申し上げますとともに、引き続きチェルノブイリ被災者への温かいご支援を心よりお願い申し上げます。



▼プレスト州立内分秘診療所へ
支援金・支援物資を贈呈

日本の皆様からお寄せいただいたカンパを所長のアルツール先生へ手渡した。近年CNMでは運送コストやメンテナンスなどの面から、できるだけ医療機材は現地で調達できるように支援金を贈呈している。今回の支援金についても、支援金で購入した医療機材・試薬類のリストを提出してもらおう予定である。
また今回同診療所へ届けた医療支援物資のうち、スライドグラス、試薬などを武藤化学株式会社より無償提供していただいた。この場を借りて、深くお礼を申し上げたい。



▼乳ガン講義の実施

プレスト州立病院での内視鏡手術の後、野宗先生より乳ガンについての講義を行っていただいた。なお今回甲状腺ガン検診の患者の中から、希望者へ自己触診指導なども予定していたが、時間の関係で実施できなかった。
講義では日本での乳ガンの現状(30-40代でのガンの発生増加傾向や自己触診の実施頻度など)について説明があり、講演の後には現地医療スタッフから質問が寄せられた。

★次回の「チェルノブイリ通信」79号で、今回検診団に同行していただいた野宗先生からの報告記事を掲載予定です。どうぞお楽しみに。

プレストよりミンスクへ移動



▼リウドミラ・チュプチュクさんとの再会

またスタッフのリウドミラ・ウクラインカさんと4歳になった愛娘のアンナちゃんも「コンフィデンス」インタビュー同席し、さらには96年のスタディーツアーで会ったグルシュコピッチ村出身のリウドミラ・チュプチュクさんとも再会できた。
写真左より、通訳のマリーナさん、ウクラインカさん、アンナちゃん、チュプチュクさん。
広島の被爆者の方よりお預かりした、被爆アオギリの種をウクラインカさんへ手渡した。



▼現地NGO「コンフィデンス」取材

検診団帰国後、ミンスク市内のホテルにて現地NGO「コンフィデンス」へのインタビューを実施した。今回は代表のイーリナさんに加え、コンフィデンスが今年の夏に実施したヨーロッパ各国での保養プログラムに参加した3人の子どもたちへの取材も実施した。
写真はインタビューに参加した子どもたち。左から、リタリ君(13歳)、ペロニカちゃん(8歳)、アルチヨム君(13歳)。



内視鏡手術の行われたブレスト州立病院(ブレスト市)

近所のタジキスタン料理レストランで夕食をとり、意外に美味しく元気を取り戻しました。ここまで移動だけで3日を費やしましたが、10月7日、いよいよ出発が近づきました。この日は朝からブレスト州立病院へ向かいました。ブレスト州立病院はベッド数940床を有するブレスト州の基幹病院になるそうです。病棟では手術候補者二名が我々の到着を待ちかまえていました。一名は濾胞腫または濾胞腺腫疑いの男性で、もう一名は腺腫様甲状腺腫疑いの31歳

女性、ガリーナさんでした。今回はベラルーシ初のVANS法による甲状腺手術という事で、慎重を期し良性疾患が確実なガリーナさんだけ手術を受ける事に決まりました。初めて会ったその1時間後にはもう手術室に入室となりました。ベラルーシ式の患者入室にはびくりました。患者さんが自分で歩いて手術室の入り口まで来ると、そこでガウンを脱ぎ手術台まで歩いていきます。麻酔導入と挿管は日本同様でした。次なる驚きは手洗い方法です。まるで家庭用のキッチンみたいな手洗い場で、外来で行うレベルの清潔度でした。体位を取り、消毒、覆布掛けが終わり、いつものようにVANS法手術開始です。執刀医は清水雄教授、第1助手に私、またボランティア参加の田中裕二君にも手伝ってもらい、手術に臨みました。ここでもう一つ大きな難関があったのです。一つはベラルーシ人には英語が全く通じませんので通訳さんを介して看護師と会話をしなければなりません。もう一つはVANS法に必要不可欠なハーモニクスギアースが準備出来なかった事でした。幸い、リガシニア(コンピューター制御のバイポーラ凝固器)はあったので、それを無理矢理応用して手術を行いました。VAN

S法による甲状腺手術約450例の経験を有する、いつも穏やかな清水教授も言語と手術機器にストレスを感じていらしたらしく手術中は怖いぐらい真剣な表情でした。これらのアクシデントにより通常90分程度の手術が、倍の3時間もかかりましたが無事終了いたしました。手術が終了すると別室に移り、ルーシ人と共に勤務時間関係なしで茶色い高濃度アルコール飲料(ブランドーっぽい味でしたがラベルが読めず正体不明)をコクコクつと飲み、一息ついたところで病院を引き上げ



無事、手術を終えて。左より田中さん、執刀医の清水先生、片山先生。

10月8日、朝一番でガリーナさんの術後回診にいきました。手術創も小さく術後合併症も無く、ご本人も手術に満足していただきました。10月9日は州立病院にお別れのご挨拶の後、またブレストからミンスクまで500km陸路の移動でした。翌10月10日は早朝、国内便でミンスクからモスクワに移動しました。成田行きの便の出発時間までトランジットが10時間ありましたので、モスクワ市内の定番観光(赤の広場、レーニン廟等)で時間をつぶしてから、帰路もアエロフロート便で帰国いたしました。今回、この検診団に随行する機会をいただいた清水教授、日本医大の皆様、チェルノブイリ医療支援ネットワークの皆様のおかげを持ちまして、ビザ無しでは未だに渡航すらままならない外国で手術に参加することができ、誠に感謝申し上げます。最後にありますが、VANS法が北海道でも甲状腺良性腫瘍に対する標準手術になるよう微力ながら精進いたしますのでよろしくお願ひ申し上げます。

ブレスト第9回検診団に参加して 甲状腺内視鏡手術の成功と、ベラルーシ医療事情

旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 講師
片山 昭公 医師



手術の第一助手を務めた片山先生

のど咽喉にある甲状腺を手術する場合、どうしても首元に傷跡が残ります。事故後、甲状腺に関する病気が増えたチェルノブイリ被災地でも、大きな傷跡が多くの女性患者にとって精神的、肉体的負担となっています。傷跡が小さくて済み、手術後の回復が早い、内視鏡を使った甲状腺ガン手術をベラルーシで実施することは、この分野の第一人者の一人である日本医科大学清水一雄医師の、かねてからの悲願でした。今回の検診では、ブレスト州立病院医師と共に、甲状腺良性腫瘍患者に対する内視鏡手術を初めて実施。無事、成功することができました。今回ベラルーシを初めて訪問し、手術助手を務められた片山医師からの報告です。



ベラルーシ初となる甲状腺内視鏡手術に多くの医療関係者が見学に訪れた

10月4日から10月11日の日程でチェルノブイリ医療支援ネットワークによるベラルーシ共和国ブレスト地区における第9回甲状腺癌検診団に参加してきました。私の参加の目的は甲状腺癌検診のためではなく、現地で初めて行われる内視鏡補助下甲状腺手術(Video-Assisted Neck Surgery: VANS法と以下略)に助手として参加するためでありました。10月1日〜3日まで横浜にて癌学会に参加していたため、10月4日は横浜から成田空港へ入り、検診団の皆様と合流いたしました。そこから、アエロフロート便にて成田からシエレメチエヴォ空港(モスクワ)へ旅立ちました。今までアエロフロートロシアに関してはあまり良い噂を聞いたことがなく不安でしたが、機材は最新式エアバスA330で非常に綺麗どころか、今まで搭乗した中で最もピッカピカのものでした。機内食もアメリカ系航空会社よりかなり美味しかったのですが、キャビンアテンダントは笑顔無しサービスで少々怖かったです。約10時間の空路をへてモスクワへ到着いたしました。唯一の心配事であった日本から持参した内視鏡手術用器具も無事通関し、モスクワ市

内のホテル・コスモス(かつてモスクワ五輪の選手村だったそうです)へチェックイン、ホテル内のロシア料理ビュッフェで夕食をとり就寝しました。本場のボルシチは日本のものより真つ赤で味的には最後まで好きになれませんでした。10月5日の午前、ホテル近隣にて、ガガーリン胸像、ロケットモニュメントなどが展示してある宇宙開発記念公園(↑)と勝手に名付けました)を小観光した後、国内便のボンバルディア機にて空路モスクワからベラルーシ共和国の首都であるミンスクに到着いたしました。その夜はミンスク市内のホテルへチェックインし、近所のイタリアン?レストランでアメリカな食事をとりました。10月6日は朝からミンスク市内の挨拶回りDAYでした。まず、ベラルーシ赤十字本部、続いて日本大使館を表敬訪問し松崎潔大使と面会しました。最後にベラルーシの州立がんセンターであるミンスク第10番病院(いかにも社会主義国風な呼称ですね...)を訪問しました。午後、ベラルーシ赤十字のミニバスを2台連ね、陸路500kmを移動し、最終目的地であるブレスト市へ移動しました。到着後はさすがにみんなお疲れの様子でしたが、ホテル

◆検診団に参加した医学生からの報告◆ 海外で患者さんの命に向き合う

田中 裕一（日本医科大学5年生）



プレスト第9回検診団に参加した田中さん(右端)

■初めての海外、ベラルーシ

今回は、10月4日から11日までベラルーシにおける甲状腺の内視鏡手術・検診に同行させていただきました。ベラルーシは日本ではあまり知られていない国ですが、実は私は以前ベラルーシに関わりを持った機会が一度だけありました。

それは中学2年生のとき。私の中学校は少し変わった学校で、当時の地理の授業は、先生からランダムに与えられた国について生徒二人一人が半年間詳しく調べ、残りの半年間を使ってクラス全体で発表をするというものでした。その時に私が先生から割り当てられた国がベラルーシでした。調べる国が決まった当初、私は全くベラルーシのことを知らず戸惑いましたが、中学生なりに一生懸命調べ、それまでの人生で初めて大使館に訪問するなど、貴重な経験がたくさんできました。

それから10年。まさかあのとき調べたベラルーシに行くことができるとは思いませんでした。昨年同じ学年の友人がベラルーシで検診を

今回の検診では、日本医科大学5年の田中裕一さんが、ボランティアとして参加してくれました。ベラルーシの医療現場を、医師を目指す若い世代の一人としてどう受け止められたのか。田中さんによる参加レポートをお届けします。

行ったというのを聞き、今年自分が行こうと思い、早くから清水先生にお願いしました。生まれて初めての海外ということもあり初めは緊張しましたが、無事に手術・検診で自分の役割を行ってきました。

■ベラルーシ初の

甲状腺内視鏡手術

初日は手術に参加しました。今回の手術はベラルーシで世界に先駆け初めて行われる甲状腺内視鏡手術ということで、スタッフはかなり厳粛な空気に包まれていました。症例は31歳女性、検診で右の甲状腺腫瘍が見つかった方でした。手術中、私は吸引・鉤引きを手伝いました。日本でも甲状腺の手術には何度か入っていたのですが、日本では予想し得ないことが多くあります。手術器具は日本で扱っているものとは異なり、とくに超音波メスが

なく、やむなくリガシユアという機器で一般外科用の大きく長い凝固器を使用しました。スタッフも英語が通じず、コミュニ

ケーションがとりづらいうなど、総じて万全な環境とはいえない中、倍の時間を要し、3時間2分の手術時間でしたが、術中大きな問題もなく無事手術は終了しました。術後の患者さんの容体も安定しており、傷口は化膿しておらず、術後合併症もありませんでした。

■プレスト市での検診

甲状腺癌の検診では甲状腺エコーと細胞診のお手伝いをさせていただきました。4年生の時から課外活動でエコー教室に参加して正常所見を学んでいましたが、実際の患者さんを目の前にして、初めは的確に画像を出せませんでした。しかし、清水先生や現地のスタッフの方々に丁寧に教えていただいたおかげで、実習の後半にはかなり上達しました。

また、アルツール先生の許可指導の下、初めて行った細胞診もわかりやすい講義と指導のおかげで無事穿刺吸引することができました。担当した患者さんはすべて甲状腺

の触診を行うことができたので、先生の指導のもと甲状腺診察の基礎・問診の取り方などを、日本語のみならずロシア語でも習得することができました。現地の患者さんと共通の言語でコミュニケーションをとれたことは大変貴重な体験となりました。

■今回の訪問で感じたこと

およそ1週間のベラルーシでの実習で感じたのは、日本の医療現場の常識にとらわれてはいけないうこと。手術中においては器具の劣化、十分にスタッフとの連携をとることができないなど、検診においては器具の絶対数の不足、患者さんとコミュニケーションをとるため

には英語を用いることはできず、すべてロシア語でなければならぬことです。

しかし、いかなる環境であろうとも目の前の患者さんを救うためにその場で機転を利かせて乗り越えなければなりません。たとえば、清水先生は劣化した超音波メスの代わりに別の手術器具を用いていましたし、言葉が通じなければ身振り手振り、あるいはその場で辞書を引いても患者さんと話さなければなりません。今回の実習ではそういった海外ならではの体験をすることができ、たいへん有意義な1週間となりました。今後の学生生活、ひいては医師となつた後も今回の体験を生かし、より一層努力していきたいと思えます。



プレスト市での甲状腺ガン検診



手術を受けたガリーナさんと

作文集

『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』より

「母のもとに六人残った」
エレナ・メリニチenko(95年来日)

私の人生は、幼いあの日以来、悲しくて、不幸なものとなった。あの時、私は小学2年生だった。それ以来、人々の苦悩や悲しみを、否応なくこの目で見てきた。そして私自身も、家族とともにそれに耐えてきた。

今、4月のあの日の朝を思い出す。天気がよく、とても暖かく穏やかな日だった。大人たちは仕事に、子どもたちは学校にでかけた。外の空気は新鮮で、緑はあざやかに萌え、鳥たちも楽しそうにさえずっていた。木々には若葉が芽を出し始め、太陽は次第に陽ざしを強めていた。

学校に行つてまもなくすると、子どもたちは目がまわるとか、目に激痛がはしるとか、体がだるいとか、眠気がするとか訴えるようになった。何がおこったかわからなかったが、とにかく普通ではなかった。

私たちはゴメリに連れて行かれ、放射能の測定をされた。服と靴の汚染の値が大きかったので、それらは焼却のために全部脱ぎ捨てなければならなかった。また、検査のために病院にも入れられた。



あるとき検査で父の血液分析の結果がよくなかった。その三ヶ月後に父は死んだ。一九八八年六月のことだ。

悲しみと痛みは私たちを襲い続けた。同じ年に祖母と伯母が亡くなった。強く恐ろしい衝撃だった。そして、母のもとに六人の子供が残った。母は一人で家族を支えなくてはいけなくなつた。

多くの悲しみや不幸を自分の肩に背負わざるをえなかつた母のことを考えた。そしてチエルノブイリによって、破壊され、不幸にされた多くの人々の運命について考えた。とくに罪のない子どもたちが、今でも苦しんでいる。しかも彼らは、自分たちの幸せと健康を奪い去つたものが何者かさえ知らないでいるのだ。

これから先何年たつても、この悲劇は、社会生活、多くの人々の運命、すべての世代の記憶に消し去ることのできない痕跡を残すだろう。

(部分)



スタイリスト、アシスタントの皆さんには今年もすばらしい技術と笑顔を提供していただきました。ありがとうございます！

来場者、サロンスタッフ、学生ボランティア・アンケートより・・・



- * 技術者の方たちの協力があってこんなに盛大にとりくまれてびっくり。これからも頑張ってください。
- * 学生の方が親切に対応して下さいました。カット担当の方も親切、丁寧でした。
- * 髪も切ってもらえて、チャリティーにも参加できて、この企画はとてもすばらしいと思いました。
- * かわいいヘアスタイルにしてもらえてうれしかったです。ありがとうございました。
- * ¥1500で髪が切れて、しかもチャリティーなので、社会貢献もできて、すごく得した気分です。
- * 丁寧でした。チャリティーなのに申し訳ないくらい丁寧でした。
- * チェルノブイリの問題が、過去のことじゃないということが分かりました。
- * 皆さん笑顔で感じが良く、すごく人が多くて忙しいにも関わらず、手際がよくて感激しました。
- * 髪も気分も軽くなりました。来て良かったです。来年も楽しみにしています。
- * もっと多くの人にこのイベントのことを知ってもらいたいと思いました。
- * 帰り際にお客様から「ありがとう」、「頑張ってるね」、「また来るね」などの言葉をかけてもらい、とても嬉しかったです。
- * 今回のイベントに参加して、チャリティーへの興味が湧きました。日頃から自分に何かできることがあると思うので、身近なところから取り組みたいです。
- * 美容師でもチャリティーに関われる事の満足感や達成感を体験でき、とても充実できました。
- * チャリティーという形でのサロンワークは初めてだったので、幅広い世代のお客様と出会えて、お話できて、とてもいい経験になりました。

今回のイベントの収益は・・・



入場料と物販売上げ、会場カンパに加え、今年は「福岡市NPO活動支援基金（あすみん夢ファンド）」より、「福岡市NPO活動推進補助金」を交付していただきました。

諸経費を差し引き、**250,937円**を医療支援カンパへあてることができました。



●応募方法・・・

ファックス、お手紙、郵便振替用紙のメッセージ欄などをご利用の上、100～150字程度のメッセージを事務局までお送りください。

●応募締切・・・

2010年4月26日まで

●注意事項・・・

お名前の掲載について、「本名」、「ペンネーム〇〇」、「匿名希望」のいずれかをお書き添えてくださいますよう、お願いいたします。



詳細はこちらです。皆さまからのメッセージをお待ちしています。

募集
しています

団体設立20周年にむけての
メッセージをお寄せください！

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、来年6月で設立20周年を迎えます。それを記念して団体HPにメッセージコーナーを設け、皆さまからいただいたメッセージを掲載させていただきます。コメントや現地へのメッセージなど、何でも構いません。ぜひお寄せください！

報告

今年も無事に終了!!

ヘアサロン・スネガビーク2009
 プロ美容師が贈るチャリティカット

チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事
 吉本 美貴

あてるという一日限りの美容室です。「スネガビーク」とはベラルーシ語で「雪だるま」、「雪の精」という意味です。



10月12日(月)、チャリティヘアサロン・スネガビークを開催しました。チェルノブイリ医療支援ネットワークの毎年恒例イベントとして定着しつつあるこのサロンは、今年で6回目となりました。

今年は開催時期が「ベラルーシへの医療検診団派遣」に加えて、「地球市民どんたく」と重なっていたために準備・広報に十分な時間が取れず、1週間前で予約は20数名という状態。「あまり人が来なかつたらどうしよう」とハラハラしながら当日を迎えましたが、フタを開けてみれば149名もの方々が足を運んでくださり、今年も大盛況のうちに終えることができました。毎年、継続してきた甲斐もあって、リピーターさんも22名いらっしゃいました。

何とかが慌しさを乗り切り、無事に終えたという達成感はあるものの、ふと振り返ってみると、「ヘアサロンの当日の来場者の方々にほだけだけベラルーシを身近に感じてもらえたのだろうか、現状をちゃんと伝えることができたのだろうか」、「ボランティアで参加してくださった大村美容専門学校や学生さんたちには『今日の自分の行いがベラルーシの人々のためになっているんだ』と実感してもらえることができたのだろうか」というような心配が、次々と浮かんできます。チェルノブイリ医療支援ネットワークを構成するメンバーとして、目の前の業務をこなしていくことも大事ですが、「ベラルーシで困難を抱える生活する人々」と、「日本からベラルーシを想い寄り添う人々」をつなぐ「架け橋」の役割も持っているということを、常に心に留めておきたいものです。



イベント終了後、記念撮影。お疲れ様でした!!

♪チャリティヘアサロン・スネガビーク2009にご協力いただいた皆さまをご紹介♪

- ◆協力サロン・美容師の皆さん・・・
 hair Nu-DA/ヘアヌーダ(Tel:092-715-2770)
 ETOILE/エトワール(Tel:092-711-1738)
 peach/ピーチ(Tel:092-725-2732)
 ANGLE/アングル(Tel:092-846-3335)
 あとりえen(Tel:092-801-6040)
 千金美和子さん(FUNNボランティアスタッフ)
 大村美容専門学校の先生方

- ◆会場提供・・・
 学校法人 大村文化学園

- ◆協賛・協力・・・
 株式会社サンコール
 (特活)NGO福岡ネットワーク(FUNN)
 グリーンコープ生活協同組合ふくおか



たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同 敬称略)

秋田里佳子 秋葉晴子 浅倉カヨ子 麻野美智子 浅原望樹
芦村恵子 麻生絹代 阿南初美 阿南みえ 安藤直美 池田直
美 石岡真由海 石原和子 石橋啓子 伊藤美子 稲吉清子
井上敏 井上春海 井上信子 井上令江 井上浜枝 井上仁美
井上陽子 井野口典子 今田陽子 今村弘子 今村美智子
岩川靖子 岩崎郁代 岩森久美 上田香織 上田和子 植村仁
美 上本知子 江口英嗣・恭子 NPO法人じやがいものおつ
ち 榎本三紀 榎本みつ枝 遠藤小織 遠藤礼子 大石恵理子
大城さゆり 大田澄子 太田千賀子 大谷正穂 大谷静香
大庭由美子 大庭亮子 岡田純子 岡原あずさ 沖・渡辺・中
西 沖仲真理 小椋あけみ 小倉紀子 落合真弓 覚正寺 勝
和子 加藤和子 加藤美千代 金輪和子 金谷照美 金竹明美
上祐元啓子 上條千栄 亀井眞子 亀川早苗 河上しげみ
河上由美子 河川友子 川原登喜の 菊池順子 岸川美好
北野浦 木下るみ 楠凡之 久保力ヨ子 久保田洋子 グリー
ンコープ生活協同組合おいた グリーンコープ生活協同組合
ふくおか 栗山美香 桑田陽子 小出明美 工房フーズ
古賀えみ子 古谷聡 古賀澄香 小金丸正子 後藤絵里 佐々
木郁江 佐々木しのぶ 佐々木孟 澤田和子 佐伯久美子 坂
田貴子 桜木秩子 佐々木悦子 サトウ矯正歯科クリニック
三藤由美 重藤馨子 柴山絵子 沢田幹子 渋谷けい子 下田
豊文 庄籠道子 白水明代 進福美 隅田三和 多伊良理津子
高田恵子 高藤富美子 高田正世 高村久 高村久美 高森
徳子 高山幸子 武田ひとみ 田中裕美 谷口恵子 檀久美子
蝶名林えい子 鶴田光子 遠矢秀三 三田ちず子 (特活)
広河隆一 非核・平和写真展開催を支援する会 友成眞子 中川
敦子 中川洋隆 中島まゆみ 中島美代子 中島俊子 長瀬清
長棟かおる 中村力ネコ 中村順子 中村幸枝 中本治嘉子
永山信子 中山美佐子 柳栄翼 西きよみ 西尾れい子 西
首延子 西出悦子 西村信代 仁平加奈子 西山けい 如法寺
龍子 箱田裕司 波多江伸子 波多江淑子 花岡美妃 浜口啓
子 濱田敦子 濱田恵子 早川もと子 早野朝子 原岡ひとみ
原田愛 引田良子 日高礼子 久田文子 樋水昭宏 福川栄
子 深田俊江 深堀三子子 福岡YUCA 榎澤保子 榎田悦
子 福永弘恵 福原和美 藤井道子 藤本和子 藤本千絵 藤
原紀代子 藤平理香 淵田三輝 日置美穂子 M&K株式会社
社 マインドネットワーク 前田晶子 前田育子 前田和義
榎田千絵 馬嶋英子 益田康子 松井由美子 松尾博文 松岡
和子 松永和子 松村明己 松本雪江 松本玲奈 丸尾匡宏・
英子 萬歳美幸 三木悦子 三木里花 水落清子 満田敬子
三橋千賀子 三宅哲子 宮元壽子 三好いつみ 庭井直美 村

合計

活動支援金 2,758,738円
のぞみ21カンパ 2,644,738円
雪だるま3号カンパ 75,000円
39,000円

上和代 村上康子 めぐみ保育園職員一同 毛利如木 桃北伸子
森洋子 森澤恵子 森下須美子 森野幸子 守山美佐子 八木
晃子 保元内科クリニック理事長 保元徳宏 安本正幸 弥永信子
矢野薫子 山浦真由 山尾桃子 山口郁代 山口幸子 山崎さ
おり 山下君子 山田京子 山田美佐子 大和千代香 吉朝潤子
吉田久美子 吉村淳子 吉村徳子 吉森隆隆 米倉由美 米原
ゆきみ 龍神地釜とつふ工房のあん ワールドホームクッキング
株式会社サンスクの台所 渡邊幸之新 和田伸夫

【都道府県別】

【北海道】	3名	【富山県】	1名	【東京都】	14名
【神奈川県】	2名	【千葉県】	1名	【静岡県】	2名
【三重県】	1名	【大阪府】	3名	【和歌山県】	1名
【滋賀県】	1名	【兵庫県】	5名	【鳥取県】	9名
【鳥取県】	2名	【岡山県】	7名	【広島県】	17名
【山口県】	13名	【愛媛県】	1名	【福岡県】	38名
【佐賀県】	11名	【長崎県】	9名	【熊本県】	23名
【大分県】	18名	【宮崎県】	4名	【鹿児島県】	11名

●マンスリーサポーター

相川靖 相羽美香子 石本祥二郎 磯道綾子 一瀬和美 稲田照
子 岩口香織 上田英子 植田清子 内野希和美 延壽富美 大
麻卓子 大久保伸子 大崎知恵 大百合 大場満 片岡八重子
金山涼子 上村匠子 紙森優子 河上雅夫 川崎清美 川尻愛
子 菊池香寿美 木村雅子 古賀輝洋 後藤宇企子 財津悠子
斉藤美代子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤
進一 佐藤照子 清水悦子 白浜千恵子 鈴木弘子 首藤展子
平笙子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千
鳥 土持秀男・由利子・朱加 網脇牧子 坪川裕子 富永隆史
友景忍 永江之子 永尾ゆかり 中村洋子 樫崎悦子 西井えり
な 丹羽道代 納富育代 廣松初美 福井初子 藤本孝子 淵田
三輝 前田靖子 松尾智恵子 松永庸子 丸山小より 水本敬子
三野桂子 村田聡子 村西美由紀 室屋芳乃 森川キミエ 山
下澄子 山中陽子 山本敬子 山本亮輔 吉田美抄子 LIFE
& ART 青空 東海林由紀 渡邊眞志子
計89名(匿名含む)

(2009年6月1日〜10月31日までに募金をして下さった方、
ならびに「のぞみ21」雑誌、チエルノブイリ支援コーナー・紅茶
の購入を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名前を
紹介することをご許可いただいた方のみ掲載しています。)

編集後記

今年の検診報告は今年と次号に分けて掲載する運びになりました。また、新しくイラストの連載も開始しました。これからお読みやすい誌面づくりを進めます。(河)

皆さまからのメッセージ (一部抜粋)

●少しでもお役にたてれば嬉しいです。スタッフの皆様に感謝して
います。●脱原発、安心して生活できる世界に。子どもたちの地球
を平和にしましょう。●地道に活動を続ける「本当に大切なこと
だと思いました。●永い間苦しんでおられるチエルノブイリの方々
が少しでも御元氣になられますように。●いつか大きな運動が広
がっていくことを祈ります。●様々な活動の報告に元氣をもらって
います。●子どもたちが幸せでありますように。原発はやめましょ
うー●核廃絶と、ベラルーシの皆様の健康回復を祈って!!●「顔
の見える支援」を少しでもお手伝いできれば嬉しく思います。●
「始めの歩」の支援です。これから少しずつ少しずつ「原発の怖さ」
知る人となりたいたいです。●1人の力は小さいですが、少しでもお役
に立てばと思います。もつと多くの方に「チエルノブイリの今」を
知ってもらいたいと願っています。●世界中のみんなが、地球が、平
和になってほしいです。●安心して飲める「コーヒー」を作ってくださ
る事を感謝しています。●現地の方々に「早くも笑顔が訪れるこ
とを願っております。●おいしい「コーヒー」いただきます。暑くなり
ましたね。負けずがんばりましょう。●日本の原発が「早く早く」
一つでもなくなりますように。被災された皆様の手助けになれば
幸いです。●二度とあのような悲惨な事故が起こらないよう祈り
ます。●マトリョーシカ人形とっても可愛かったですー子ども達に
もチエルノブイリの話をするきっかけになりました。●微力ですが
何か役に立てて下さい。●子どもたちの笑顔が続くことを願ってや
みません。ネットワークの方々の努力に敬意を込めて下さりやかと
が応援させて頂きます。

美味しく、楽しく ベラルーシ料理 を作って食べよう!

ベラルーシの家庭料理作りにチャレンジしてみませんか?いつものランチとは一味ちがう時間を過ごすことができますよ!



●日時: 12月12日(土) 12~15時
●場所: 古賀市中央公民館 研修棟1F調理室
(古賀市中央2-13-1)
●参加費: 1000円
●定員: 15名(要予約)
※エプロン、タッパーなどをご持参ください。
♪ご予約・問合せは事務局まで♪
TEL/FAX: 092-944-3841
E-mail: jim@cher9.to

チェルノブイリ 医療支援 検索